

放課後支援推進事業

放課後子どもフロン東北地区研修会 in 安達公民館

- 目 的：** 地域が子どもたちを支えていく取組を推進するため、県内の放課後子どもフロン関係者が一堂に会し、事業への理解を深めるとともに、放課後対策事業の関係者の資質向上を図る。
- 日 時：** 平成26年7月11日（金）
- 場 所：** 二本松市安達公民館



講演 「今、放課後子ども教室って！」

文部科学省社会教育アドバイザー 下村 咲子 氏

小平市の放課後子ども教室での実践例や、長年子どもたちやボランティアと関わってきた経験談など、活動の写真にふれながらお話をいただきました。

- 小平四小では、放課後子ども教室の中に8つの教室を開催しており、年間402回実施している。
- 放課後子ども教室の役割は、学校、保護者、地域が一緒になって子どもたちの居場所を作ることにある。併せて大人の居場所づくりにもなっている。
- 子どもたちの社会的な関わりを増やすことで、子どもたちの心の成長を見守ることが大事である。
- 今の子どもたちの中には、感じられるものを感じることができなかつたり、普通のトーンでの話ができなかつたり、目を見て話せなかつたりする子がいる。この子たちの将来を考えるととても不安になる。
- 人と触れ合いながら、人の様子を見ながら学んでいくことが大切である。今は分からなくても、将来のために必要である。子どもたちには、いろいろな居場所が必要である。
- コーディネートするとき、人数集めを考えては疲れてしまう。一人でもよい。それぞれのやり方、自分たちのスタイルで構わない。
- スタッフ（指導者、ボランティア、安全管理者）の喜びは、子どもたちの生き生きとした笑顔であり、同じ時間を共有している喜びである。このことがボランティアの気持ちを高めていく。
- 放課後子ども教室の成果は、子どもたちと地域の方々との関わりが増したこと、地域の方々や学校に抵抗なく関わるできるようになったこと、地域の中でのあいさつが増えたことで防犯にも役立っていること、子どもの表現力が向上したこと、地域の方々や保護者との関係が近くなったことなどがあげられる。
- 放課後子ども教室の課題は、コーディネーターやボランティアの育成、何よりも継続していくこと、地域と共に創る（歩む）ことがあげられる。



実技研修 「コミュニケーションづくりを取り入れたゲーム」

国立那須甲子青少年自然の家 大竹 伸 氏 志賀 亮太 氏

那須甲子青少年自然の家の大竹氏、志賀氏のご指導のもと、コミュニケーションづくりを取り入れたゲームを研修生全員が体験し、実践的に理解を深めることができました。また、コミュニケーションづくりの手法を用いて、研修生同士の交流と情報交換を行いました。

〔実技〕※ゲームを体験

◇「命令ゲーム」(アイスブレイク)

「命令〇〇」と号令をかけて、動作を行うゲーム。

◇「集合ゲーム」(お互いの理解・自己紹介)

同じ血液型、同じ誕生日などでグループを作る。無限にあるものは適さない。できたグループで、自己紹介などをするとよい。

◇「グループ作り」(お互いの協力)

指導者が手を打った人数のグループを作る。必ずグループに入れなかった人のフォローを行う。できたグループでゲームなどを行う。ゲームは身体接触のないものから行う。

◇「ラインナップ」

身長順、誕生日順などで整列するゲーム。話をせずゼスチャーだけなど負荷を加えると楽しい。

◇「カードゲーム」(振り返り)

発表するお題を書いたカードを配り、その内容に沿った話をする。周りからアドバイスをもらう。



御意見 要望 感想 (参加者アンケートから)

- ・ 今後の指導に役立つものばかりで、明日からの子どもたちとの関わりが楽しみになった。
- ・ レクリエーションはとても楽しかった。子どもたちに関わる際ぜひ使いたい。
- ・ 子ども教室のことを知らなかった。とても勉強になった。
- ・ 子どもも大人も楽しいと思える時間を過ごせるような活動にしたいと思った。自分がゲームを体験できる研修はよかった。
- ・ 子ども向けの遊びをもう少し取り入れてほしかった。
- ・ とても貴重な体験であった。ぜひ参考にしたい。
- ・ いろいろな活動の実践例をもっと知りたい。今後の研修で企画して欲しい。

